

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171700509		
法人名	社会福祉法人 恵和会		
事業所名	グループホーム花の木(第1ホーム)		
所在地	岐阜県恵那市大井町 2709-72		
自己評価作成日	平成22年1月10日	評価結果市町村受理日	平成22年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171700509&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171700509&amp;SCD=320</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年2月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>木造作りの平屋で自然豊かな静かな環境の中、地域との交流を持ちながら、日向ぼっこをするように穏やかで安らぎのある生活を共に支え合い、個々を尊重し日々を楽しく過ごせるように支援しています。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>静かな林の中、自然環境に恵まれた広い敷地に、2ユニット平屋建てのホームである。歴史ある母体の福祉法人を背景に安定した職場環境で、運営や職員教育や研修制度を有効に活用している。職員間で、ケアについてよく話し合いが行われ、利用者の思いに寄り添い、この土地の方言で笑いのある会話が職員と利用者の中で飛び交い、利用者の表情は皆、穏やかである。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票(第1ホーム)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての基本理念をもとに地域密着型としての方針を掲げ共有し意識づけに努め援助に繋げていますが、日々の中での話し合いの面では不十分なところがあります。	昨年の課題であり、5ヶ年事業計画の中でも検討され、法人の基本理念を基に、「穏やかで、安らぎのある暮らしを支えあう」とホーム独自の理念を作りあげている。職員間で日々のケアの中で理念の共有や意義について理解に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域社会との繋がりを常に意識し事業所から歩み寄ることに努め、行事への参加お誘いを通じて地域住民との交流に取り組んでいます。	地域との連携を重要視し、毎年交代する時期に地域の自治会役員宅を訪問して、ホームを理解する機会を多く設けている。地域の行事に参加したり、花火大会に招待を受けたり、保育園の運動会や祭りや五平餅会に参加して、地域の交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が関わり合う中で地域の方に訪問や行事参加をしてもらい交流の場を作り、生活状況を理解して頂けるように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催で入居者の近況・事業所の取り組みを報告したうえで運営推進委員の方々から率直な意見をもらい、話し合ったことをスタッフに伝えサービスに活かす様にしています。	2ヶ月に1回開催している。地域の老人クラブや高齢者の集いへの参加が提案されたり、秋祭りに子ども神輿がホームの玄関まで来る等の話題や意見が出され、実践してサービスの向上に結び付けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議、行事参加を通じて連携に努めるだけでなく、電話・メールを密にして協力関係を築いていけるようにしています。	市とつながりは密にある。地域密着型の担当者会議の開催にも参加し、困難事例や職員間の研修について、地域で行うことなど協力体制はできている。又市内の高校の体験場所としてホームを提供してしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者に対して緊急やむを得ない場合にスタッフ間で話し合い、家族に説明し同意を得ています。玄関の施錠は夜間のみとし、常に身体拘束をしない意識づけに取り組んでいます。	利用者の権利や身体拘束に関して、法人内の研修やホームの学習会を開いて、職員間で共通認識を図り、安全な虐待のないケアや身体拘束のないケアに取り組んでいる。また、利用者や家族には、入居時に説明し理解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修・勉強会の参加に努め、虐待防止への意識をミーティング徹底出来るようにしています。職員間でコミュニケーションがとれる機会を作ることに努めています。		

岐阜県 グループホーム花の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修、勉強会で学び、関係者との連携をとり、入居者に活用しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の説明・改訂時の同意はもちろんのこと、入居後の様子・状態変化に応じて家族との連絡に努め説明を行い理解を得ています。面会や行事を通じ安心感に繋がっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し要望が聞ける様に努め、近況報告を通じて面会、行事の際に家族から意見・要望を聞けるようにしています。20年度より、家族宛にサービス内容のアンケート調査を実施しています。その後、ミーティング・申し送りで把握・徹底し活かせるようにしています。	20年度から法人全体で、家族に満足度サービスについて、アンケート調査を行い、出された意見や要望を分析して話し合い、運営に活かしている。また、面会や行事に参加した機会を利用している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングや日々のミーティング・申し送り・記録に目を通し、意見・提案については詳しく把握出来る様に、スタッフ間のコミュニケーションに努めています。	職員間で話しやすい雰囲気や関係ができています。2ヶ月に1度の全体ミーティングや日々の申し送りノートを活用し、意見や提案を出す機会を多く設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の姿勢や意欲を把握出来る様に努めコミュニケーションに心がけています。今後、人事考課制度を導入し更に職場環境や条件の整備に繋がっていきます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修・勉強会への参加・資格取得への協力により配慮に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流・勉強会の機会があれば積極的に参加を勧め、サービスの質を高めることに活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用初期においては個別ケア・傾聴に努め本人の気持ちを把握する様に心がけ信頼関係を築けるような関わりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望時より、家族の思いをスタッフが受け止め、サービスの内容・方向性を話しあい同意を頂き、関係を深めていけるようにしていきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一人ひとりに何が必要かの把握に努め、家族にも協力を得て法人内の専門職とも相談し、初期段階の支援に活かしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共生の中で尊厳を持って関わり、お互いに支え利用者を知ることで信頼関係を築いていけるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を密にし家族の状況を配慮し共に支えていくことで信頼関係を築けるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時の配慮や家族にも連絡をとり、手紙・電話、訪問を通じ、馴染みの関係が継続できるようにしていますが、もっと個別の外出などに繋げていきたいと考えています。	馴染みの人や家族の面会時には、利用者のプライバシーの保護や、個人情報漏れるのを防ぐためにも、面会室を設け、家族がゆっくりできる場所を提供している。また、入居前の地域の「御詠歌の会」「囲碁・将棋」に継続して出かけるように職員が同行する場合もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の状態を把握する中で一緒に物を作る作業や活動を定期的に行い、お互いの存在感を認めあえる様な支援に心がけています。		

岐阜県 グループホーム花の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、方向性に沿った相談や支援に努め、状況提供にも心がけ、本人、家族との関わりを継続するようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジ</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別の関わりを通じて思い傾聴し家族とも連絡を取り、意向の尊重、選択の意志に心がけています。	利用者の生きる力となる意思や暮らし方の希望が表出されやすい入浴時間を活用し、思いや意向の把握に努め大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報、本人との会話・関わりをもとに生活歴の把握に努め個々理解を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、ミーティング、個人の処遇記録を通じて一人ひとりの生活状況や状態の把握を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の思いを把握し現状での課題を職員間で検討し介護計画の作成に繋げています。	利用者や、家族の意向や思いを尊重して、ケア会議で検討し、介護計画を作成している。また、3ヶ月に1回の見直しをしている。日々の申し送りノートやミーティング帳を活用して、利用者毎に担当職員が決めてあり、職員の意見も見直しに活用している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に活かせるように日々の様子や援助の結果を適切に誰にも理解できるように記録しミーティング帳の活用も合わせて情報の共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに合わせ、法人内の事業所に相談・助言、協力を得ながら柔軟な支援に繋がっています。		

岐阜県 グループホーム花の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の生活歴での地域資源を把握し継続することで安楽な生活に繋げていけるよういかにしていきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の受診状況と家族の希望を優先しています。状態の変化を家族に連絡し同意を得て受診に繋げ報告を行っています。	かかりつけ医は利用者や家族の希望を重視して決めている。2週間に1度協力医の往診がある。	個々のかかりつけ医への受診には職員が同行し対応しているが、その時間は、ホームに残された職員の業務負担となり、ケアが手薄になりやすいことから、再度職員や家族を交え対策を講じられたい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化、異変の観察に努め看護師に伝え適切な対応に繋げる、医療職が不在の場合、看護師、訪問看護師に連絡し指示・助言のもとに対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	本人の受診状況と家族の希望を優先しており、状態の変化に応じて家族に連絡し受診の同意を得るようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化。終末期の方針は家族に説明させて頂き、段階ごとに家族・主治医と連携を取りその方の生活環境について相談、検討しています。地域・法人内で可能な協力や支援に繋がっています。	利用者や家族とは、重度化や終末期について話し合い、その段階ごとに検討している。ホームとしての重度化や終末期の方針は決めているが、明文化されていない。	職員間で意思の共有が図れ、チームで支援するためにも、ホームの方針を明文化されたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアル、実践の徹底と研修、勉強会の参加は行っていますが、実践面では不十分な面があるので定期的な取り組みに繋がっていきます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い職員の対応が徹底出切るように努めています。今後、地域の方々にも協力して頂ける機会取り組みを検討していきます。	火災や自然災害の避難訓練は消防署の指導の下に実施されている。課題であった避難通路の確認は、職員間で統一ができている。	

岐阜県 グループホーム花の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した関わり方、言葉使いの徹底に努めプライバシーの確保において常に確認しあうようにしていきます。	入居時に、利用者や家族から普段の呼び方、愛称を聞き、その利用者の尊厳を尊重する言葉かけを大切にしている。。トイレ誘導時は特に気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望の傾聴に努めさらに、表情・様子から思いを汲み取れるようにしていきます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課にそった支援になりがちなので、本人の希望、願いに沿った支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容の活用、洋服の好み、意向を尊重した支援に努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好やリクエストメニューを行い、食への楽しみに繋げる様にしています、食事一連の行動を一緒に行えるようにしています。	職員はゆっくりと利用者のペースに合わせて、話題を提供しながら支援している。嗜好や希望メニューを日常生活の中から聞き取り、食の楽しみへと繋げている。キッチンが自由に出入りができ、食後の後始末は利用者が進んで行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量をチェック表にて確認し支援していますが、一人ひとりの習慣に応じた食生活においては不十分な面があります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔内の状態と個々の口腔ケアの状況に応じて支援しています。		

岐阜県 グループホーム花の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導表、尿量、排便チェックから個々の排泄状況を把握しトイレでの排泄、排泄動作の維持に努めています。	排泄チェック表を利用することで、失禁が少なくなり、排泄の自立が出来たケースもある。利用者の居室のすぐ前にトイレがあり、動線が短く、3部屋に1つの割合でトイレが設備されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を家族から情報提供をして頂き、チェック表で確認し飲食物、運動、散歩等で自然排便に繋がっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2ホームで入浴の時間帯を変えており、個々の入浴状態や希望の受け入れに努め、入浴日や順番に配慮しています。	ヒノキの浴槽で、利用者は入浴を楽しんでいる。2ユニットで入浴時間帯をずらしてあるため、利用者やゆったりとコミュニケーションをとる最適な時間として、職員は入浴時に利用者の様々な思いを傾聴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活状況や心身の状態把握に努め、個々の生活リズムの中で安眠や休息が取れる様にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の目的、用量、副作用を理解し誤薬防止への対応や服薬後の状況を把握し、医療職に申し送り情報提供に繋がっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、残存機能を活かした役割や楽しみが持てる生活に繋がる支援に努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別支援、外出においては希望に沿った支援が充分には出来ておらず、法人内の行事や地域のイベントへの参加を行い検討していきます。	日常的にホームの庭を散策できる環境に恵まれ、四季を感じるができるが、個別の希望に添った外出の支援は充分にできてない。	今後、法人の行事や地域のイベントへの参加を検討しているため、その実現に期待したい。



岐阜県 グループホーム花の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の状況をにに応じて家族と話し、金銭所持、使用、管理を行なっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中見舞いの作成を活動に取り入れ支援しています、希望に応じて電話の使用も個別に支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く落ち着いた空間への配慮と季節感が感じられるものを取り入れ作品等を掲示する中で安心感、馴染みがある環境整備に努めています。	2つのユニット間は自由に行き来ができて開放感がある。天井が高く、天窓から自然光が差し込んでいる。高校の実習場として、庭はいつも季節の花が植えられ、利用者を楽しませている。玄関には鉢植えが置かれ、シンボルツリーの大きな花の木がいやしの効果を与えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや座椅子の配置、和室の活用を通じ個々の居場所作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に洋間と和室があり、馴染みの家具を持ち込んで頂き自由な配置で居心地良く過ごして頂ける様に配慮しています。	各居室には広い押入れがあり、衣類をかけるように設計され、利用者の好みに応じて、整理整頓は自分で行っている。ベッドは備品としてホームで用意しており、その他は、馴染みの家具を持ち込んでもらい、使いやすいように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	木造作りの段差のないオープンフローで個室の入り口に名前のプレートや好みでのれんを掛けさせて頂き、共有のトイレは場所案内をしてわかりやすく自力で行動してもらえるように配慮しています。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2171700509		
法人名	社会福祉法人 恵和会		
事業所名	グループホーム花の木(第2ホーム)		
所在地	岐阜県恵那市大井町 2709-72		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票(第2ホーム)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての基本理念をもとに地域密着型としての方針を掲げ共有し意識づけに努め援助に繋がっていますが、日々の中での話し合いの面では不十分なところがあります。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域社会との繋がりを常に意識し事業所から歩み寄ることに努め、行事への参加お誘いを通じて地域住民との交流に取り組んでいます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が関わり合う中で地域の方に訪問や行事参加をしてもらい交流の場を作り、生活状況を理解して頂けるように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催で入居者の近況・事業所の取り組みを報告したうえで運営推進委員の方々から率直な意見をもらい、話し合ったことをスタッフに伝えサービスに活かす様にしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議、行事参加を通じて連携に努めるだけでなく、電話・メールを密にして協力関係を築いていけるようにしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者に対して緊急やむを得ない場合にスタッフ間で話し合い、家族に説明し同意を得ています。玄関の施錠は夜間のみとし、常に身体拘束をしない意識づけに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修・勉強会の参加に努め、虐待防止への意識をミーティング徹底出来るようにしています。職員間でコミュニケーションがとれる機会を作ることに努めています。		

岐阜県 グループホーム花の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	第2ホームにおいては研修、勉強会で学び関係者との連携を深め、活用してみえる入居者に活かせる支援に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の説明・改訂時の同意はもちろんのこと、入居後の様子・状態変化に応じて家族との連絡に努め説明を行い理解を得ています、面会や行事を通じ安心感に繋がっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し要望が聞ける様に努め、近況報告を通じて面会、行事の際に家族から意見・要望を聞けるようにしています。20年度より、家族宛にサービス内容のアンケート調査を実施しています。その後、ミーティング・申し送りで把握・徹底し活かせるようにしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングや日々のミーティング・申し送り・記録に目を通し、意見・提案については詳しく把握出来る様に、スタッフ間のコミュニケーションに努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の姿勢や意欲を把握出来る様に努めコミュニケーションに心がけています。今後、人事考課制度を導入し更に職場環境や条件の整備に繋がっていきます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修・勉強会への参加・資格取得への協力により配慮に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流・勉強会の機会があれば積極的に参加を勧め、サービスの質を高めることに活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用初期においては個別ケア・傾聴に努め本人の気持ちを把握する様に心がけ信頼関係を築けるような関わりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望時より、家族の思いをスタッフが受け止め、サービスの内容・方向性を話しあい同意を頂き、関係を深めていけるようにしていきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一人ひとりに何が必要かの把握に努め、家族にも協力を得て法人内の専門職とも相談し、初期段階の支援に活かしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共生の中で尊厳を持って関わり、お互いに支えい利用者を知ることで信頼関係を築いていけるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を密にし家族の状況を配慮し共に支えていくことで信頼関係を築けるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時の配慮や家族にも連絡をとり、手紙・電話、訪問を通じ、馴染みの関係が継続できるようにしていますが、もっと個別の外出などに繋げていきたいと考えています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の状態を把握する中で一緒に物を作る作業や活動を定期的に行い、お互いの存在感を認めあえる様な支援に心がけています。		

岐阜県 グループホーム花の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、方向性に沿った相談や支援に努め、状況提供にも心がけ、本人、家族との関わりを継続するようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジ</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別の関わりを通じて思い傾聴し家族とも連絡を取り、意向の尊重、選択の意志に心がけています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報、本人との会話・関わりをもとに生活歴の把握に努め個々理解を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、ミーティング、個人の処遇記録を通じて一人ひとりの生活状況や状態の把握を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の思いを把握し現状での課題を職員間で検討し介護計画の作成に繋げています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に活かせるように日々の様子や援助の結果を適切に誰にも理解できるように記録しミーティング帳の活用も合わせて情報の共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに合わせ、法人内の事業所に相談・助言、協力を得ながら柔軟な支援に繋がっています。		

岐阜県 グループホーム花の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の生活歴での地域資源を把握し継続することで安楽な生活に繋げていけるよういかにしていきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の受診状況と家族の希望を優先しています。状態の変化を家族に連絡し同意を得て受診に繋げ報告を行っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化、異変の観察に努め看護師に伝え適切な対応に繋げる、医療職が不在の場合、看護師、訪問看護師に連絡し指示・助言のもとに対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	本人の受診状況と家族の希望を優先しており、状態の変化に応じて家族に連絡し受診の同意を得るようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化。終末期の方針は家族に説明させて頂き、段階ごとに家族・主治医と連携を取りその方の生活環境について相談、検討しています。地域・法人内で可能な協力や支援に繋がっています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアル、実践の徹底と研修、勉強会の参加は行っていますが、実践面では不十分な面があるので定期的な取り組みに繋がっていきます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い職員の対応が徹底出切るように努めています。今後、地域の方々にも協力して頂ける機会取り組みを検討していきます。		

岐阜県 グループホーム花の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した関わり方、言葉使いの徹底に努めプライバシーの確保において常に確認しあうようにしていきます。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望の傾聴に努めさらに、表情・様子から思いを汲み取れるようにしていきます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課にそった支援になりがちなので、本人の希望、願いに沿った支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容の活用、洋服の好み、意向を尊重した支援に努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好やリクエストメニューを行い、食への楽しみに繋げる様にしています、食事一連の行動を一緒に行えるようにしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量をチェック表にて確認し支援していますが、一人ひとりの習慣に応じた食生活においては不十分な面があります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔内の状態と個々の口腔ケアの状況に応じて支援しています。		



岐阜県 グループホーム花の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導表、尿量、排便チェックから個々の排泄状況を把握しトイレでの排泄、排泄動作の維持に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を家族から情報提供をして頂き、チェック表で確認し飲食物、運動、散歩等で自然排便に繋げています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2ホームで入浴の時間帯を変えており、個々の入浴状態や希望の受け入れに努め、入浴日や順番に配慮しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活状況や心身の状態把握に努め、個々の生活リズムの中で安眠や休息が取れる様にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の目的、用量、副作用を理解し誤薬防止への対応や服薬後の状況を把握し、医療職に申し送り情報提供に繋がっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、残存機能を活かした役割や楽しみが持てる生活に繋がる支援に努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別支援、外出においては希望に沿った支援が充分には出来ておらず、法人内の行事や地域のイベントへの参加を行い検討していきます。		

岐阜県 グループホーム花の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の状況をにに応じて家族と話し、金銭所持、使用、管理を行なっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中見舞いの作成を活動に取り入れ支援しています、希望に応じて電話の使用も個別に支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く落ち着いた空間への配慮と季節感が感じられるものを取り入れ作品等を掲示する中で安心感、馴染みが持てる環境整備に努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや座椅子の配置、和室の活用を通じ個々の居場所作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に洋間と和室があり、馴染みの家具を持ち込んで頂き自由な配置で居心地良く過ごして頂ける様に配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	木造作りの段差のないオープンフローで個室の入り口に名前のプレートや好みでのれんを掛けさせて頂き、共有のトイレは場所案内をしてわかりやすく自力で行動してもらえるように配慮しています。		